

宋の詩の特徴

宋詩観賞会資料 2021.05.27

1) 宋という時代 文治政治、堯舜以来という認識があった。

cf~1) 邵雍。

cf~2) 印刷技術の進歩。出版物の盛行。

2) 宋の文学における詩の地位 詩は文学の主流。

cf~1) 士大夫階級は詩作に務めた。

cf~2) 民間でも詩集出版等が盛行。

3) 宋詩の叙述性

cf~1) 欧陽脩「日本刀歌」「啼鳥」

cf~2) 梅堯臣「范饒州坐中客語食河豚魚」

4) 生活への密着

cf~1) 梅堯臣「祭猫」「悼亡詩」

cf~2) 「汝墳貧女」「田家語」

諷諭をもって唐詩を継承するもの。

5) 連帯感

cf~1) 欧陽脩「豊樂亭遊春三首」

散文「醉翁亭記」

6) 宋詩の哲学性、論理性

cf~1) 邵雍「伊川擊壤集」

cf~2) 欧陽脩「白髮喪女師」

7) 宋詩の人生観、悲哀の止揚

人生観 cf~1) 蘇舜欽「淮中晚泊犢頭」

cf~2) 欧陽脩「啼鳥」25 我遭讒口身落此 26 每聞巧舌宜可憎

悲哀の止揚 cf~3) 蘇軾詩 ~吾生如寄耳~ 別離隨處有、悲惱緣愛結。

8) 唐詩と宋詩

唐詩	酒	興奮	甘	青年	唐三彩	花・柳
宋詩	茶	平静 平淡	渋	成年	青磁 白磁	槐(えんじゅ) 楸(ひさぎ)

9) 平静の獲得

cf~1) 欧陽脩「啼鳥」

cf~2) 蘇舜欽「初晴游滄浪亭」

10) 詩の歴史における宋詩の意義

唐の杜甫、韓愈、白居易を祖述、又 陶淵明を発掘祖述。

蘇軾による悲哀の止揚。漢・六朝から唐まで、詩が果たさなかった悲哀からの離脱。杜甫においてさえ困難であった。

それを宋詩は蘇軾を指導者として大きく果たした。

以上「宋詩概説」吉川幸次郎 を参考